

III章 雌伏の時に異能発揮

- ◇ジュニア天折に苦悩 ◆生弓齋閑話・参戦命拾いはフィクション ◇大弓場にも出入り、駿府生活 ◇妻子を実験台に？種痘の推進 ◇二弦琴で東流の宗家を継承 ◇和歌は春嶽指導で弓にも生きる ◇お茶製造、紙漉きも本腰 ◇馬好きで、愛称は「驢馬の殿様」 ◇一族で博覧会、芝居見物

77

IV章 弓術再興へ奮起

- ◇関口源太が強く働きかけ ◇弓術復興へ戦闘宣言 ◇上野東照宮での奉射 ◇弓術継続会を旗揚げ ◇新たに射道継続会が発足 ◇弓も巢鴨村長職もフル活動 ◇職員の使用込みで苦難の対応

98

V章 学生らを熱血指導

- ◇西久保八幡宮に縁の史跡も残る ◇今に続く一高・東大との縁 ◆生弓齋閑話・東大弓術部で稽古した漱石 ◇『弓学講義』、長谷部が手伝う ◇指矢得意の慶應・若林と親交 ◇武徳会大会で行射できず ◇浦上弓術会の相談にも乗る ◇日本体育会を集団で指導 ◇美校、利實彫像を作成 ◇権威者が集まった老弓会 ◇内山勲との交流 ◇外国人からも指導要請 ◇シヨッキングな綾女の死 ◇弓に熱心過ぎて惣代が叛旗 ◇弓に専念、庚申塚を拠点に

121

VI章 秘伝書を公開、『弓術書』発刊

- ◇学生と共同作業で歴史的偉業 ◇竹林派射術の特性を前面に ◇弓術書、大学関係にも刺激 ◇学習院や高商、医学校も指導 ◇華族の一族郎党を指導 ◇華族のジュニアに拡大 ◇神懸り行事も実践 ◆生弓齋閑話・

169

質素・儉約で余裕の生活

VII章 本多の門に実力者集結

◇大平の射、見事なりと激賞 ◇富士山や玄海灘で射流し ◇同門だった阿波、錦戸、長谷部 ◇石原、徳永、三輪ら九州勢も活発 ◇大日本弓術会を根矢が組織 ◇一高生の天神山道場の思い出 ◇亀井らを指導した大内義一 ◇岡内木、市川虎四郎らとも交流 ◇長い付き合いの鈴木伊兵衛 ◇弓術会支えた服部三彦ら ◇相談相手の実弟・實清が死去 ◆生弓齋閑話・ウメエ、ウメエの誉め言葉

204

VIII章 「本多の弓」、全国展開へ

◇大正スタート、お祝相次ぐ ◇仙台に九州にと大展開 ◇斃れても本望と九州遠征 ◇日銀など社会人指導も活発に ◇心優しい対応、地方出張も ◇大都市へも泊りがけ出張 ◇三菱は利實門弟で全国展開 ◇弓道の正課要求で運動 ◇弓術会、『射道』を発刊 ◇大射式、鳴弦などを文書に ◇利實主導の講習会も開く ◇台湾にも弓術会支部発足 ◇可愛かられた利時 ◇利時、幼少から弓の才能発揮 ◇時計や金魚で気分転換 ◇二弦琴の稽古は終世続く ◆生弓齋閑話・年齢超越、驚異の矢数記録

233

IX章 弓道館の攻防、衝撃の遺言

◇友好ムードいっぱい射初式 ◇余命考え研究会で語る ◇弓道館構想で大平ライジング ◇夢も広がり射礼爽快 ◇根矢が内情を暴露し抵抗 ◇日置弾正の画像で講演 ◇調整も実らず破門に ◇騒動の中、著名人の入門相次ぐ ◇『尾州竹林派弓術書』を発刊 ◇本多家世々家元なる事を決す ◇極秘裏に東大預けの遺言書 ◇東大総長が平伏して激賞 ◇本多流の呼び名はいつから ◇墓参帰り市電にはねられる ◇利實遺言

262

が大平の夢碎く ◇利時支援で生弓会発足

X章 「剛健典雅」の世界を歩く

◇弓道再興へ指導的役割 ◇惹きつけた進取の気性 ◇世に阿らず悠々自適 ◇幾千幾万幾千万本の矢数を
◇五味で心法論展開 ◇正面打起論はいつ提起したのか ◇奥が深い弦取りの稽古 ◇筋骨の動きを写真で範
示す ◇的中超越した大きな弓 ◇生命躍動の調和で典雅を ◇剛健の核、心は中りて矢早 《遺志引継ぎ本多
流の隆盛》 ◇生弓齋文庫の誕生、維持活用 ◇射法改革・射法統一での前進 ◇懸案の取組もお活発

資料編

資料Ⅰ	本多利實年表	328
資料Ⅱ	本多利實著作集	331
資料Ⅲ	弓道保存教授及演説主意	333
資料Ⅳ	射道百首	336
資料Ⅴ	生弓齋文庫総目録	339
資料Ⅵ	本多家家計簿	354
資料Ⅶ	参考文献	387

あとがき 流派発展へ新たな踏み台に 情報公開へ『弓術書』発刊の伝統引継ぐ

筆者・東大弓術部師範 小林 暉昌